

# 横浜港の強制水先の緩和について

横浜市港湾局



# 1 横浜港の強制水先の現状

横浜川崎区の強制水先対象船舶は、  
平成11年に300総トン以上⇒3,000総トン以上に緩和

港名 (コンテナターミナル)	強制水先対象船舶
横浜港 (本牧・大黒ふ頭)	3,000総トン以上の船舶
東京港、川崎港 神戸港、大阪港 横浜港(南本牧ふ頭)	1万総トン以上の船舶



国際コンテナ戦略港湾において  
横浜港のみ圧倒的に不利な条件

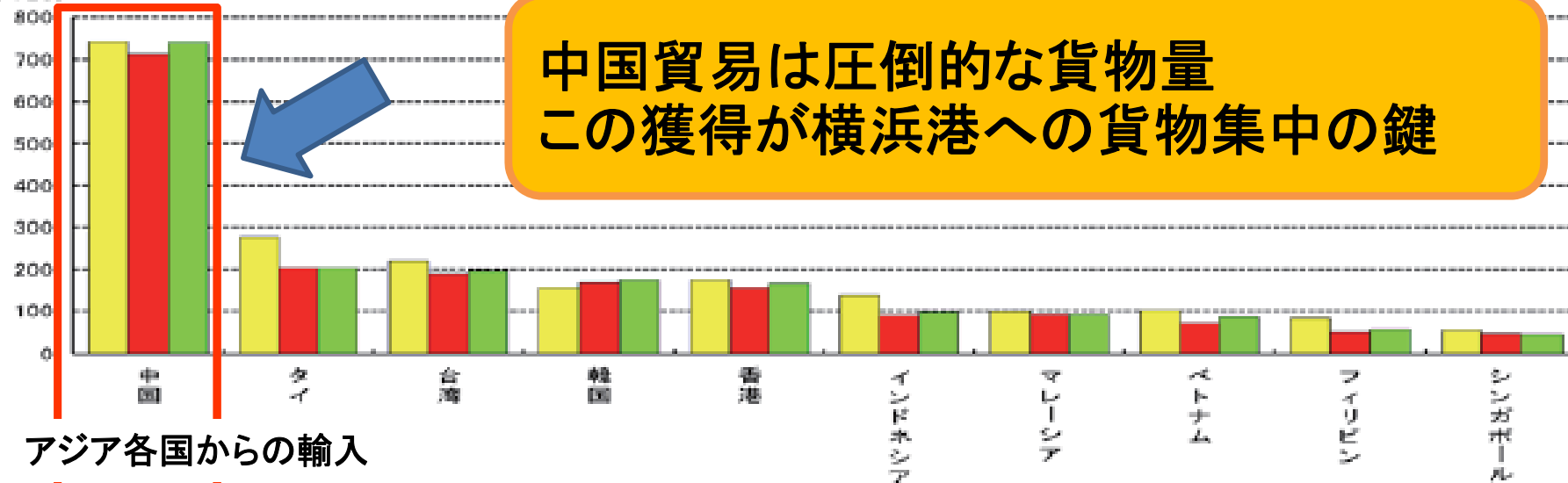
# 2 強制水先緩和の必要性

## 中国航路の重要性

アジア各国への輸出

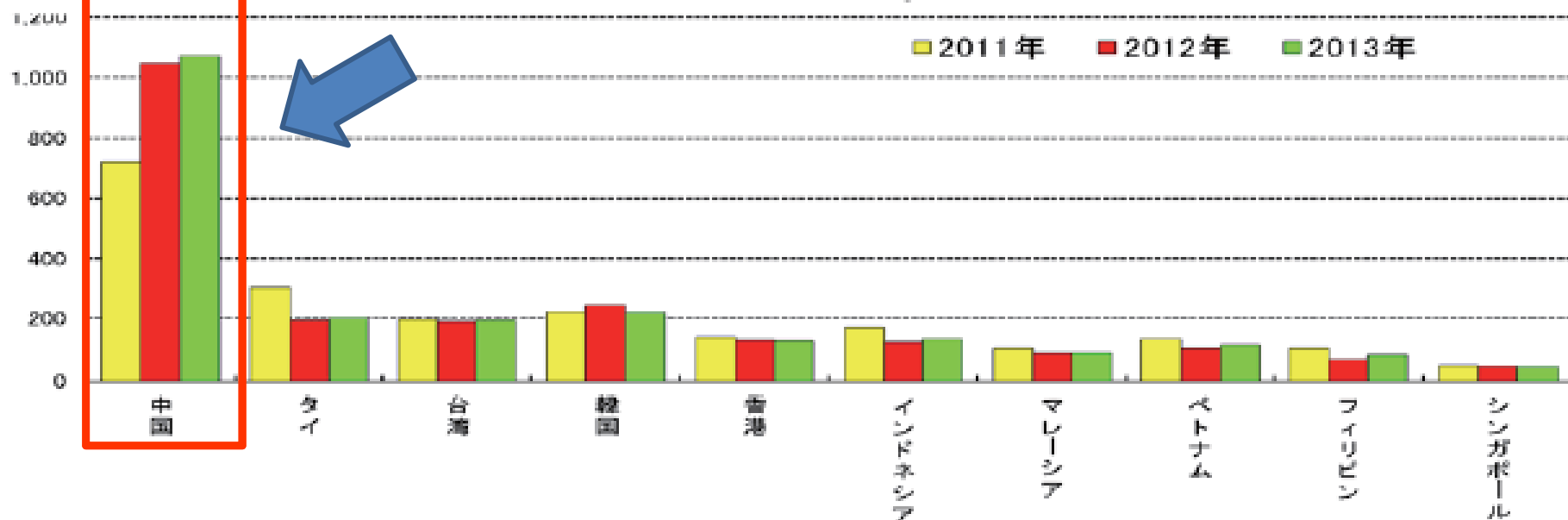
国土交通省『海事レポート2014』より

(千TEU)



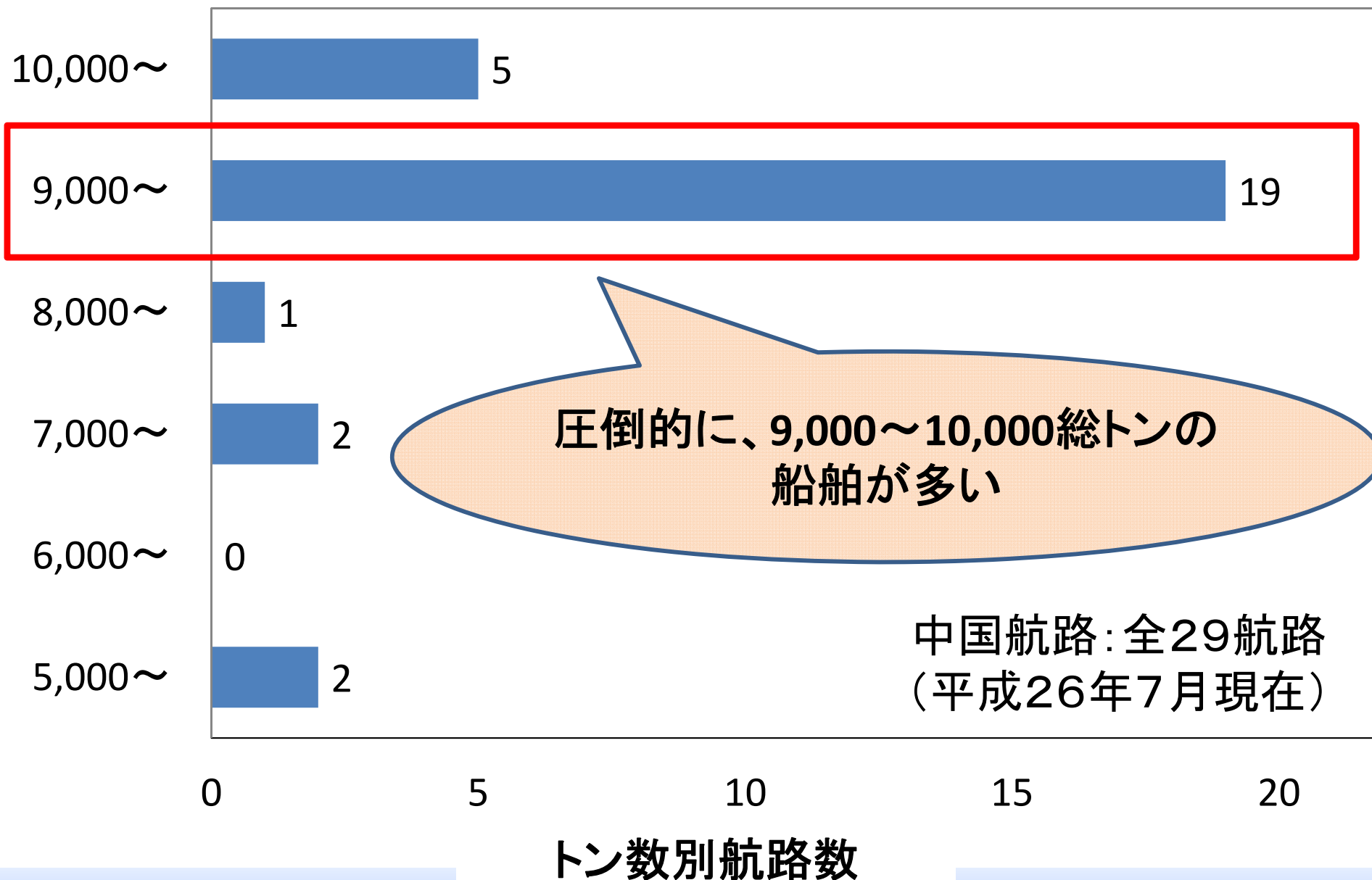
中国貿易は圧倒的な貨物量  
この獲得が横浜港への貨物集中の鍵

アジア各国からの輸入



## 2 強制水先緩和の必要性

中国航路の約8割が強制水先対象



## 2 強制水先緩和の必要性

北米⇔中国間のトランシップ貨物の獲得

地理的優位性を生かしたハブ機能獲得

〔国際トランシップ(イメージ)〕

地理的優位性

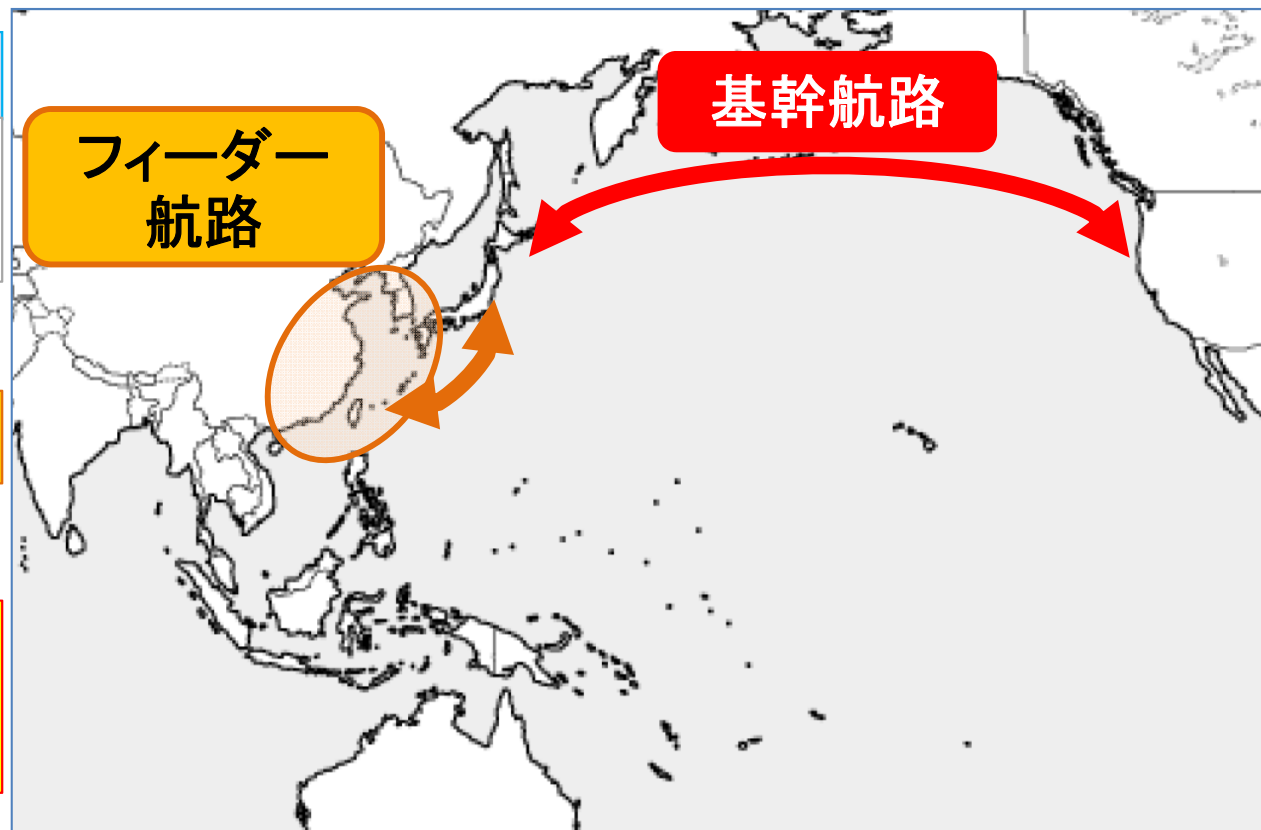
北米航路のファーストポート・  
ラストポートの好位置



中国航路の競争力強化



トランシップ貨物の  
横浜港への集中



# 3 航行環境の改善

コンテナ化の進展

在来岸壁の廃止

コンテナターミナルの高度化

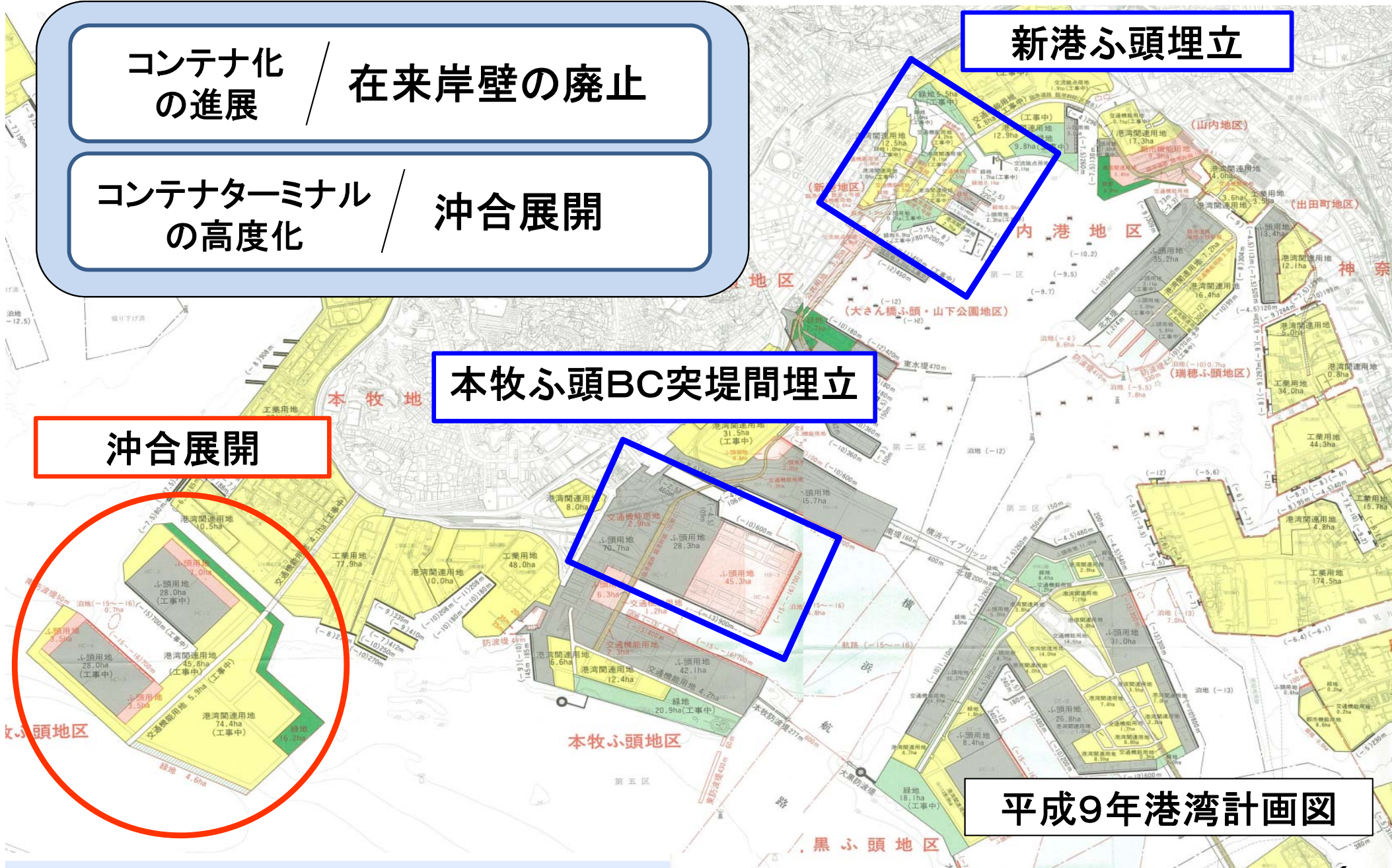
沖合展開

新港ふ頭埋立

本牧ふ頭BC突堤間埋立

沖合展開

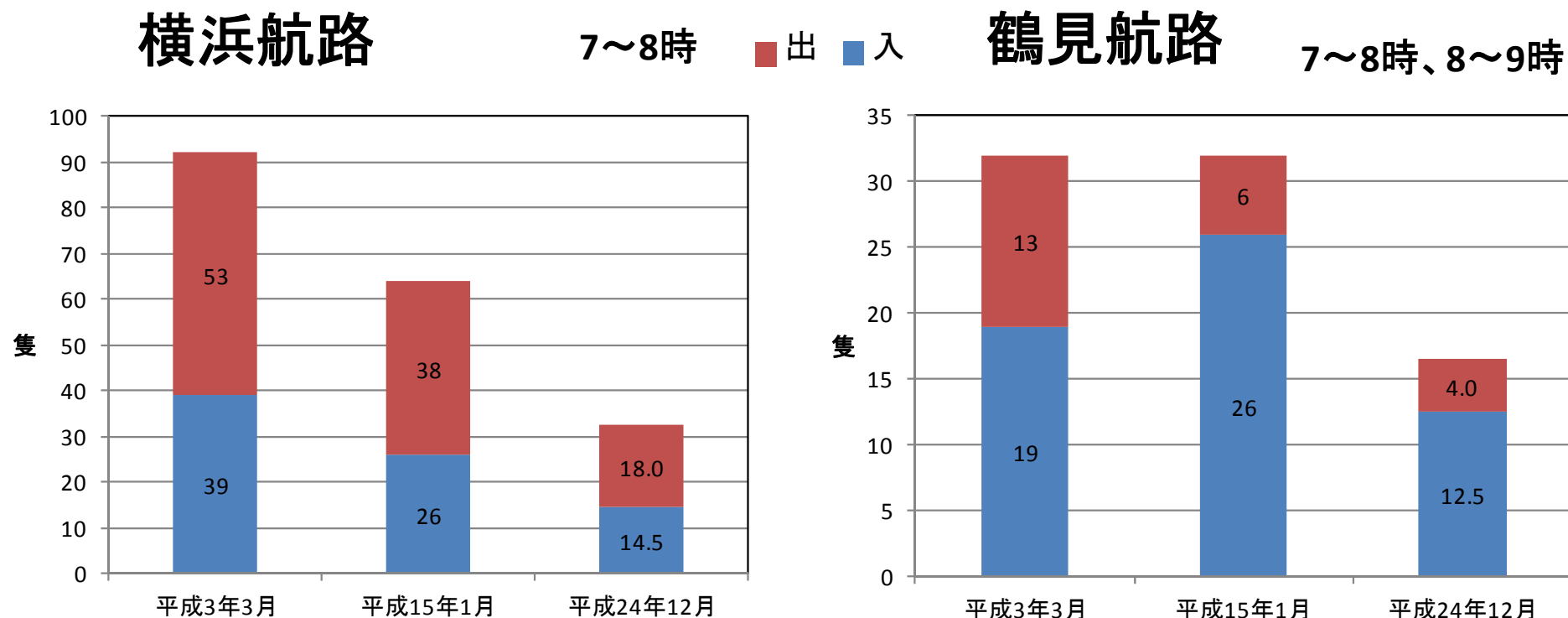
平成9年港湾計画図



# 3 航行環境の改善

## 航路航行隻数の減少

### 横浜・鶴見航路入出港隻数(ピーク時間帯)



ピーク時間帯の航行隻数は、平成3年に比べて5割~6割程度減少



航行環境の改善

# 4 横浜川崎区の強制水先に関する検討会

## 検討会の設置

国土交通省海事局が「**横浜川崎区の強制水先に関する検討会**」を設置(平成26年2月)

## 検討会の目的

横浜川崎区の強制水先対象船舶

平成11年 300総トン⇒3,000総トンに緩和

15年経過による環境の変化

入港隻数の減少により、  
船舶の混雑状況が緩和

国際戦略港湾としての位置付け、  
港湾整備に一定の進展

同水域の強制水先について、操船安全面からの客観的・定量的な分析等  
安全性の検証を行った上で、その対象船舶のあり方を総合的に検討する。



# 4 横浜川崎区の強制水先に関する検討会

## 検討会の経過

- ①第1回検討会(平成26年2月26日(水))
  - ・検討会の目的、スケジュール等の確認
  - ・横浜市からの説明(緩和の要望、航行環境の改善)
  - ・シミュレーション調査の実施方法(案)
- ②第2回検討会(平成26年3月26日(水))
  - ・横浜市、川崎市、水先人会、日本船主協会、外国船舶協会からの説明
  - ・シミュレーション調査の実施方法
- ③第3回検討会(平成26年5月27日(火))
  - ・川崎市からの説明(緩和の要望、横浜と川崎の分離検討の提案)
  - ・安全対策の検討
  - ・横浜港を川崎港に先行して検討するためのスケジュールの変更
- ④第4回検討会(平成26年7月31日(木))
  - ・コンピューターシミュレーション結果
  - ・安全対策の方針

# 4 横浜川崎区の強制水先に関する検討会

## 今後の予定

横浜港について、川崎港に先行して検討を進めてきたところ、**第5回検討会(平成26年8月26日)**において、中間とりまとめが行われる予定であり、**緩和の可否が決定**されることとなっている。

※横浜港の強制水先の緩和について「**本年8月までに結論を得る**」と明記した「**日本再興戦略**」改訂2014が閣議決定(6月24日)

## 検討会スケジュール

- 第5回検討会(平成26年8月26日(火))
  - ・ 操船シミュレータ実験結果及び評価
  - ・ 横浜港についての中間とりまとめ
- 第6回検討会(平成26年10月予定)
  - ・ 横浜港についての最終とりまとめ